

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市桜の園（身体障害者福祉施設） 静岡市桜の園（重度障害者生活訓練ホーム）		
課名	障害福祉企画課		
指定管理者名	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部静岡済生会		
指定期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和3年6月4日（金）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 戸塚 直子（障害福祉企画課長） ②委員 竹田 憲司（地域リハビリテーション推進センター所長） ③委員 望月 巖（障害者支援推進課） ④委員 堀越 英宏（特定非営利活動法人 静岡市障害者協会事務局長） ⑤委員 熊澤 順子（静岡市重症心身障害児（者）を守る会会員）		
評価点 (各委員平均点)	73.8点	評価	A・B・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	<p>事業は概ね計画どおりに実施され、施設の保守・点検など適切な維持管理が行われている。特に、地域との交流や利用者サービス向上への取組は高く評価されているため、引き続き工夫を凝らした事業を実施していただきたい。</p> <p>施設入所については目標を達成しているものの、短期入所及び生活介護（通所）の利用者数は目標を達成できておらず、日中一時支援もほとんど利用されていない状況である。指定管理者の有する専門性や医療機関等との幅広いネットワークを活かし医療的ケア対応の充実について検討するとともに、日中一時支援の利用者ニーズを把握、施設のPR活動など、利用率の向上に向けた取り組みを進められたい。</p>		

総合評価結果総括表

施設の名 称 [静岡市桜の園（身体障害者福祉施設）、
静岡市桜の園（重度障害者生活訓練ホーム）]
課 名 [障害福祉企画課]
指定管理者名 [社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認	【配点50点】					
(1) 事業の円滑な実施						
(ア) 事業計画書等に示された事業が予定どおり、円滑に実施された	4	4	4	3	4	3.8
(イ) 仕様書に掲載されている3年後の目標を達成しているか（1日平均利用者数：施設入所支援50人、生活介護（入所）50人、短期入所5人、生活介護（通所）30人）	3	3	4	2	4	3.2
(ウ) 事務事故が発生していないか	5	4	4	3	3	3.8
(2) 適正な人員配置						
(ア) 専門的な資格を有した人員について、適切な人事配置が行われた	4	4	4	3	4	3.8
(イ) 施設運営上必要となる職員の教育・研修が計画的に実施された	4	4	3	4	3	3.6
(3) 安心・安全を最優先した施設の維持管理						
(ア) 専門技能を有した第三者への業務委託等を実施し、施設・設備の保守・管理・点検・清掃等が適切に実施された	4	4	4	4	4	4
(イ) 緊急時・事故発生時において迅速な対応と市への連絡・報告がなされた	4	4	4	4	4	4
(ウ) マニュアル等を整備し、適切な防災・救急訓練等が定期的に行われた	4	3	5	3	3	3.6
(4) 庶務事務						
(ア) 健康診断の実施等、利用者の健康把握に配慮し、また個人情報の保護が適正に行われた	4	4	5	4	3	4
(イ) 適切な経理がされており、健全な運営がなされた	4	4	5	3	4	4
小 計	40	38	42	33	36	37.8

2 指定管理者の創意工夫 【配点15点】						
(ア) 指定管理者のもつ専門性・技術・ネットワーク等を活かした事業が実施された	4	4	4	3	3	3.6
(イ) 質の向上に向けた取組が積極的に行われた	4	3	4	3	3	3.4
(ウ) 実習生やボランティア等の受入れに対する姿勢や体制を確立し、福祉人材を育成するとともに施設の理解促進を図った	5	4	4	2	3	3.6
小 計	13	11	12	8	9	10.6
3 市民（利用者）のサービスの向上 【配点15点】						
(ア) 利用者の満足度調査において高い評価を受けた	4	3	3	3	4	3.4
(イ) 利用者満足の上昇のため、専門的知識、技能習得等職員の資質向上がなされた	4	3	4	4	4	3.8
(ウ) 利用者及び保護者からの意見を積極的に収集する体制を構築し、寄せられた意見等の対応が適切になされた	4	3	4	3	3	3.4
小 計	12	9	11	10	11	10.6
4 施設固有の評価項目 【配点20点】						
(ア) 地域と利用者、また利用者同士の交流を図る等、開かれた施設運営が行われた	5	3	4	4	5	4.2
(イ) 利用者にとってサービスの向上（利用者に応じたレクリエーション活動、食事内容・送迎サービスの充実等）を図る取組を積極的に行った	4	4	3	4	5	4
(ウ) 施設利用者との良好な関係の保持のための取組を積極的に行った	4	3	4	3	4	3.6
(エ) 定員に対する利用者の現状を把握し、利用率の向上がなされた	3	3	4	2	3	3
小 計	16	13	15	13	17	14.8
合 計	81	71	80	64	73	73.8

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】

- ・事業計画書に示された事業が予定どおり実施されており、事業見直しのための委員会が設置されている。
- ・令和元年度は赤字であったが、令和2年度は黒字に改善されている。
- ・地元の少年院の職員や院生を受け入れてのボランティア等、ボランティアを受け入れる姿勢や体制が確立されている。
- ・生活介護（通所）の利用者は定員の60%程度のため、利用率向上への取り組みについて一層の工夫が求められる。

【B評価委員】

- ・事業者の立地条件に対応したBCPについて、今後検討していただきたい。
- ・短期入所の利用者の契約数を増加する取り組みをしていただきたい。
- ・駿府学園のとの交流などユニークな取り組みは評価できる。地域福祉教育の拠点としての可能性が高いため、市社協の地域福祉活動計画ともリンクして地域福祉の拠点となってほしい。
- ・コロナ禍で困難な面があるが、終息後に向けて利用者に対する第三者訪問（福祉オンブズマンのような活動）も検討していただきたい。
- ・多様な障がい配慮した課題の検討、とりわけ重度、重症化に対応した個別支援について検討していただきたい。「終の棲家」になる部分はやむを得ないが、できる範囲で地域移行を可能にしてほしい。

【C評価委員】

- ・人員不足と利用者の年齢・区分により、定員数の受け入れは難しいと感じた。
- ・日中一時支援、短期入所の受け入れを前向きに考えていただきたい。
- ・専門性のある職員が多いことを活かした活動（研修など）を積極的に行ってほしい。
- ・アンケートに記載されている、言葉遣い、虐待行為については気になる。
- ・地域の方と防災訓練等を行うことは大事だと感じる。

【D評価委員】

- ・利用者の目標の達成について、入所施設はほぼ目標に達しているものの生活介護や短期入所は目標を大幅に下回っている状況にある。通所、入所、施設全体の利用者ニーズについて把握し、施設全体の視点で利用率向上に具体的に取り組むべき。
- ・施設内のスタッフだけでなく、町内や実習生、ボランティアなど、多くの人が入り出す活気のある施設づくりを望む。
- ・利用者や保護者のニーズを常に把握して対応していくという方向性の下、施設内のスタッフとコミュニケーションを取り、「あなたらしさの向上」に対応した対策を具体的に検討し、小さいところから実現してほしい。

【E評価委員】

- ・事業計画に沿って対応できている。
- ・とても努力していただいているが、法人の特色を十分に活かしてきれていない。医療的ケアの充実とPRにより更に利用が見込まれるのではないかな。
- ・利用者へのサービス向上には対応しているが、外部へのPRが足りず、新たな利用者につながっていないと思われた。

・地域との連携やニーズの取り込みに努めており、開かれた施設を目指して取り組んでいる。

評価委員会としての意見

事業報告書等から概ね計画どおりに事業は実施されており、地元の町内会や少年院との交流など開かれた施設を目指した地域との交流が行われていること、レクリエーション活動や食事を工夫するなど利用者へのサービス向上に取り組まれていることについて特に評価できる。

一方で、短期入所や生活介護（通所）の利用者数は目標を達成できておらず、日中一時支援もほとんど利用されていない状況である。施設全体の利用者ニーズの把握、指定管理者が有する専門性や医療機関等との幅広いネットワークを活かした医療的ケア対応の充実、施設のPR活動など、利用率の向上に向けた取り組みを進められたい。